

リハビリテーション論

科目コード

DF3122



| 単位数 | 履修方法 | 配当年次 | 担当教員 |
|-----|-------------|------|-------|
| 2 | R or SR(講義) | 2年以上 | 稲垣 成昭 |

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2023年度の開講後は2025年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

我々の生活のさまざまな場面で「リハビリテーション」が行われています。「リハビリ」という言葉が一般的に使用されるようになり、多くの人々は、病院内での歩行訓練や療法士の行う徒手訓練をイメージするようです。しかし、動かなくなってしまった手足への訓練（医学的なアプローチ）＝リハビリテーションではありません。リハビリテーションは、社会福祉（福祉）分野でも日々展開される重要な理念であり、目標であり、方法でもあります。

わが国の福祉専門職、および専門職をめざす方々には、リハビリテーションについての正しい理解と、「広義の福祉」と「リハビリテーション」との関連性について学んでいただきたいと思っており、このことは、福祉領域の発展に寄与し、何より対象者の利益になり得ます。また、リハビリテーションは、複数の専門職により行われており、福祉専門職従事者の方々もチームの一員です。今後の福祉専門職種の方々は、チームの一員としてリハビリテーションを担う必要があり、どのようなシステムで行われているのかを的確に把握する必要があります。

本科目では、「リハビリテーション」、「社会資源」、「チームアプローチ」、「地域リハビリテーション」などについて適切な理解を促し、利用者へのより良いサービス提供について考えていただきたいと思えます。リハビリテーションを単体で理解するのではなく、「福祉」と「リハビリテーション」の双方の観点から考察してみてください。

■到達目標

- 1) リハビリテーションの理念について自分の言葉で説明できる。
- 2) リハビリテーションの領域と役割について説明できる。
- 3) リハビリテーションに携わる専門職種の役割及び連携のあり方について説明できる。
- 4) 地域リハビリテーションの概要を説明することができる。
- 5) 生活者としての対象者への援助を多角的に考察することができる。

■教科書

天満和人・奥村チカ子・爲数哲司編集『セラピストのための概説リハビリテーション 第2版』文光堂、2018年

(最近の教科書変更時期) 2021年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。当日資料を配付いたします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

江藤文夫編著『よくわかるリハビリテーション』ミネルヴァ書房、2005年

中村隆一編著『入門リハビリテーション概論 第7版』医師薬出版、2009年

椿原彰夫編著『リハビリテーション総論』診断と治療社、2007年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

リハビリテーションは、複数の専門職により行われており、福祉専門職従事者の方々もチームの一員です。今後の福祉専門職種の方々には、チームの一員としてリハビリテーションを担う必要があり、どのようなシステムで行われているのかを的確に把握し、地域で“普通の生活”を送ることの重要性を理解し、リハビリテーションの基本的な考え方を説明できるように学んでいただきたい。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|-------------------|-----------------------|
| 1 | リハビリテーション概論① | 語源、定義、対象、領域 |
| 2 | リハビリテーション概論② | リハビリテーションの思想と歴史 |
| 3 | リハビリテーション概論③ | 対人援助職に必要とされる態度 |
| 4 | リハビリテーション専門職種 | 各種専門職種と過程（プロセス） |
| 5 | リハビリテーションの基本にあるもの | 日常生活動作（ADL）と生活の質（QOL） |
| 6 | リハビリテーションの実際① | 身体障害、発達障害について |
| 7 | リハビリテーションの実際② | 精神障害、老年期障害について |
| 8 | 質疑応答 | |
| 9 | スクーリング試験 | |

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に（教科書も適宜使用）に講義を進めます。また、適宜グループワークを実施します。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況50%+スクーリング試験50%（持込可）。
試験では特に到達目標記載内容について理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1部及び第3部（7～10章）をある程度読んでからスクーリングに出席してください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容 | 学びのポイント |
|----|--------------------------------|---|--|
| 1 | 障害を持った人をどう理解し、接するべきか（第1部3章） | 障害を持つということは、どういふことか気持ちや苦悩を共感する。 | 対象者の苦悩や気持ちについて感じてください。 |
| 2 | リハビリテーションとは（第1部1章） | リハビリテーションの意義について理解し、その背景となる歴史を知ることで、障害者とリハビリテーションの関係性を学ぶ。また、各領域の特徴や目的を学ぶ。 | リハビリテーションの語源、意味を理解する、総合リハビリテーションの各領域（医学的・教育的・社会的・職業的）での目標や特徴を知り、リハビリテーションが持つ意味を考えてみましょう。 |
| 3 | 疾病と障害構造（第1部2章） | 国際生活機能分類（ICF）の構造と構成要素間の関係性を学ぶ。 | 対象者を理解するためには、疾病や障害の分類と生活機能分類の構造や関係性について理解することが重要です。 |
| 4 | チーム・アプローチの意義と問題・展望（第1部4章） | チームの構成と特性について学び、チーム・アプローチの必要性について理解する。 | チームで取り組むメリット・デメリットとは何かを知り、円滑なチームの運営を考えてみましょう。 |
| 5 | リハビリテーション専門職の役割と独自性①（第2部1～5章） | チーム・アプローチに関連する職種と役割について学び、特徴と必要性について理解する。 | チームを構成する、さまざまな職種についての役割と特徴を理解しましょう。 |
| 6 | リハビリテーション専門職の役割と独自性②（第2部5～10章） | チーム・アプローチに関連する職種と役割について学び、特徴と必要性について理解する。 | チームを構成する、さまざまな職種についての役割と特徴を理解しましょう。 |
| 7 | リハビリテーション医療における評価①（第3部1・2章） | リハビリテーション医療における評価・治療プログラムの考え方を学ぶ。 | リハビリテーションにおける評価～治療プログラムの過程を理解しましょう。 |
| 8 | リハビリテーション医療における評価②（第3部3章） | 機能・構造障害に対するアプローチの方法を学ぶ。 | 機能・構造障害の概念とは、機能・構造障害に対するアプローチの方法について理解しましょう。 |
| 9 | リハビリテーション医療における評価③（第3部4・5章） | 活動制限に対する評価ADLの概念を学び、具体的活動内容及びADLとの関連について理解する。 | 対象者の生活を再構築する為のADL、IADLなどの生活技術の評価をする視点を理解することが重要です。 |
| 10 | リハビリテーション医療における評価④（第3部6章） | 参加制約に対するアプローチの方法を学ぶ。 | 参加及び参加誓約になる因子について知り、アプローチの方法について理解しましょう。 |

| 回数 | テーマ | 学習内容 | 学びのポイント |
|----|-------------------------------|---|---|
| 11 | リハビリテーション医療の展開① 病院・施設 (第3部7章) | 病院や施設で行われるリハビリテーションについて学ぶ。 | 病院・施設で行われるリハビリテーションの目的や過程について理解しましょう。 |
| 12 | リハビリテーション医療の展開② 地域 (第3部8章) | 地域リハビリテーションにおける多様な支援を学び、基本理念・考え方を理解する。 | 地域リハビリテーションの流れや課題を理解し、自分達が支援する場合にどのようなことができるのかを考えてみましょう。 |
| 13 | リハビリテーション医療の展開③ 教育 (第3部9章) | 教育リハビリテーションについて学ぶ。 | 教育機関で行われるリハビリテーションの目的や連携について理解しましょう。 |
| 14 | 障害をもつ人の心理と専門職としての対応 (第3部10章) | 障害受容と対人援助職に必要とされる態度について学ぶ。 | 対象者にとって最高のQOLとは何かを考えてみましょう。そのために専門職種としてどのような対応が必要かを理解しましょう。 |
| 15 | 社会資源の活用 (第3部14章) | 社会資源とリハビリテーションの関連性について理解する。各種資源及び活用上の留意点について学ぶ。 | 社会にはどのような資源があり、その資源をどう利用するのか、自己の経験などから考えてみましょう。 |

■レポート課題

| | |
|-------|--|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | ① リハビリテーションの各領域について論じてください。 ② リハビリテーションと福祉の関連性を総合的観点から記述せよ。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

- (1) 教科書を熟読し、リハビリテーションについて理解を深めてください。
- (2) リハビリテーションについて、関連書籍や文献などを読み自分自身の言葉で説明できるよう理解を深めてください。
- (3) いずれも①、②の両方について解答してください。各課題に取り組む際には、予め目次を作成し、記載する内容を明確にしてから本文作成を行ってください。目次をレポートの冒頭に必ず記入してください。事前準備を行うことなく、本文作成を行うとまとまりのないレポートとなることがあるため、注意が必要です。
- (4) 教科書の内容を写すのではなく、各自の言葉で記載することが原則です。また、第三者が理解できる内容、記載であるかの確認を行ってください。
- (5) 参考・引用文献は必ず2つ以上記載してください。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。



①リハビリテーションとは、複数の関係職種が多角的側面から共通目的に向かい努力する過程です。また、さまざまなリハビリテーションが存在します。リハビリテーションを実践する現場は、施設や病院のみではなく、人々が住みなれた地域なども含まれます。生活者としての存在を維持する上で、地域社会との結び付きは欠かすことのできない課題も存在します。ここでは、総合リハビリテーションをしっかりと理解した後、リハビリテーションの各領域における専門職種の役割及び連携のあり方について考察してください。

②現在の障害は複雑かつ多様化し重度の障害を有する障害者数も増加傾向にあります。現在、各種障害者に対するリハビリテーションは、病院、在宅、地域などさまざまな場面で展開されています。また、わが国の平均寿命は、人生50年の時代から、今や80年時代へと変革してきています。単なる延命という量的な問題に加え、高齢期をいかに意義あるものとして生きるかといった質的問題が問われる時代です。ここでは、障害者および高齢者を主な対象として、リハビリテーションと福祉の関連性を、医療、福祉施設、地域、生活などを多角的に考察してみてください。

科目修了試験

■評価基準

解説問題は、内容理解が一番のポイントであるが、設問にて問われている単語の「キーワード」が書かれているかが重要になります。また、キーワードの意味を自己の言葉で記述する事が必要です。

語句の記入問題は、上記の解説問題でのポイントと同様で、ここではキーワードを聞いている問題になります。各設問で問われているキーワードを適切に理解していることがとても大切です。